

文章校正時における提示媒体と誤字の種類が作業成績に及ぼす影響

中村 友美

従来から校正作業は紙媒体を用いて広く行われてきた。しかし、コンピュータが日常的に使用されるようになったことや、近年の環境への意識の高まりを踏まえると、PC ディスプレイ上で校正作業を正確に、効率良く行えるようになることはこれからの社会で必要とされると考えられる。

そこで、本研究では PC ディスプレイでの校正作業をより活発にする手掛かりを得るために、紙媒体と PC ディスプレイで校正作業を行い、提示媒体によるエラー検出への影響を検討することを目的とした。また、文章中のエラーには様々な種類のものであると考えられるので、複数のエラータイプを設定し、提示媒体との関連を検討した。

実験 I では、紙媒体および PC ディスプレイで校正作業を行い、それぞれ紙条件、PC 条件とした。エラータイプは音韻同一エラー、表面エラー、文脈エラーという性質が異なる 3 つのエラータイプを設定した。各提示媒体のエラー検出率、所要時間、フリッカー値、メンタルワークロードの主観的評価および提示媒体に対する主観的評価を指標として扱った。その結果、提示媒体とエラータイプには影響がみられなかった。また、エラー検出率、所要時間および疲労度について提示媒体間の差は示されなかった。ただし、校正のしやすさについて紙媒体の方が評価が高かったことから、課題のパフォーマンス等にかかわらず参加者の主観的評価に差が示されることが明らかとなった。エラータイプでは文脈エラーがもっとも検出率が低いことが示された。

実験 II では、紙媒体、PC ディスプレイ、タッチパネルを使用し、校正作業を課題とする実験を行った。実験 I より、PC 条件における機器の操作が課題のパフォーマンスに影響を与えている可能性が考えられたためタッチパネル条件を追加し、検討した。エラータイプは、文脈エラーを除外し、表面エラーと音韻同一エラーの 2 種類を使用した。また、測定指標には、実験 I で使用したものに表示品質に関する主観的評価を追加し、フリッカー値の測定は行わなかった。これは、実験 I で画面の明るさ等が参加者の主観的な疲労に影響していること、本研究の課題負荷の程度では疲労度の変化がみられないことが考察されたためである。結果より、提示媒体とエラータイプの関連は示されなかった。さらに、課題のパフォーマンスに対する提示媒体の影響はみられず、本研究では課題のパフォーマンスレベルでは提示媒体の違いの影響はみられなかった。一方で、疲労度に対する提示媒体の影響がみられ、電子媒体よりも紙媒体の方が精神的負担が少ないことが示された。さらに、品質表示への印象、提示媒体に対する主観的評価には、提示媒体の影響がみられ、概して、紙媒体の方が電子媒体よりも評価が高いことが明らかとなった。

本研究では提示媒体とエラータイプに関連がみられなかったことにより、提示媒体に特有の誤字の種類を見出すことはできなかった。また、校正作業のパフォーマンスに対する提示媒体の影響もみられなかった。しかしながら、提示媒体への印象が、紙媒体と電子媒体という 2 種類の媒体の違いに関連があることが示唆された。特に、校正のしやすさについては紙媒体の方が電子媒体よりも評価が高いことが明らかとなっただけでなく、PC ディスプレイの表示品質の印象が良くなるほど、ユーザーは校正がしやすいと感じることがわかった。表示品質を向上させることで PC ディスプレイでの校正作業を促進させることができる可能性が示された点は、提示媒体の違いによるパフォーマンスの差を考慮する一助となると思われる。(応用行動学・ボランティア行動学)